

只見川中流域左岸の沢

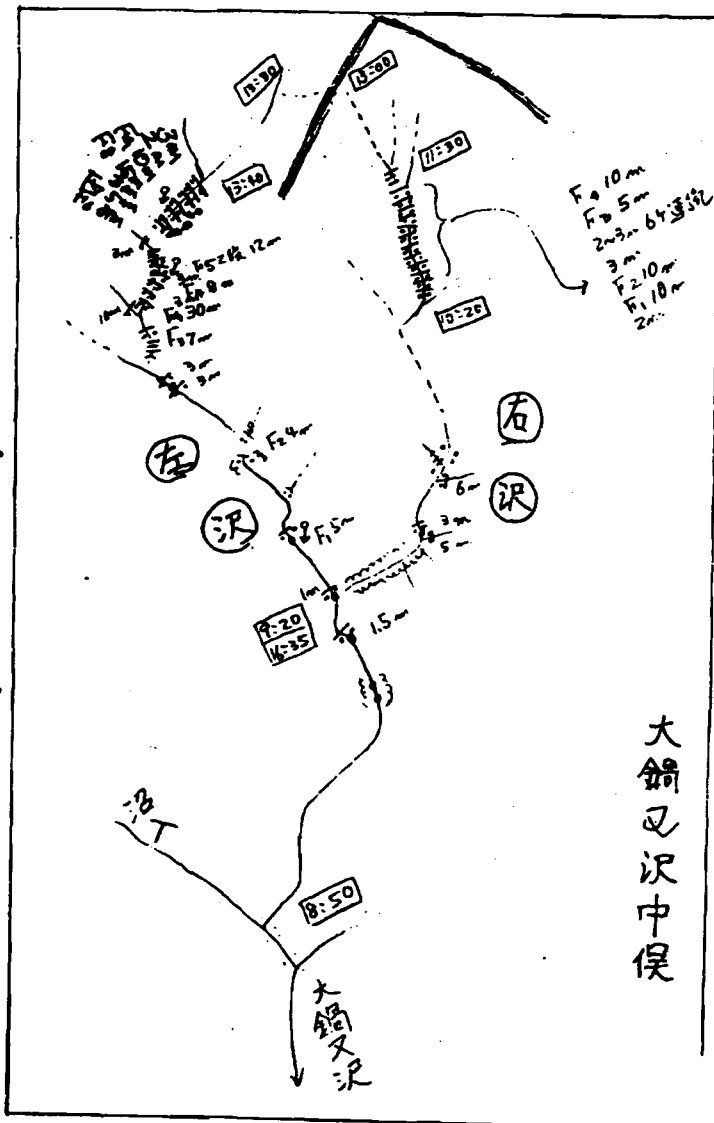
大鍋又沢中俣右沢

1990年8月25日

L5

大鍋又沢を1時間ほど遡ると、三俣に出る。ここは広い河原で、アシが茂っている。今日の目標である中俣に入る。水量は少なく、二俣まで時折イワナが姿を見せた。三俣から30分で二俣となる。ここで小休止をとり、右沢に入る。

右沢は兩岸が迫りV字状となっている。しばらく遡ったところで3mの小滝が出てきたが、その先は平凡となり、やがて水の流れもなくなる。もう終わりかなと思っていると、目の前に岩壁が現われた。水は岩肌をはうように伝わって流れている。F₁10m, F₂10mとも左より登る。その先は小滝が連続していた。斉藤君が沢



に不慣れなため、右岸のブッシュ帯でギブアップ。ザイルを出して、この先尾根にぬけるまで、アンザイレンして登ることとなった。岩のグレードでは3級程度なのだが、高度感があるので、少し怖いぐらいの感じだ。右俣の源頭部を眺めると、これまた岩場に突き上げていて、面白そうである。

13:00尾根のブッシュ帯に出てザイルをとき、下降する左沢の源頭に向けてトラバースする。

[タイム] 林道終点(7:30)→大鍋又沢(7:45, 7:50)→中俣出合(8:50)→右沢出合(9:20, 9:35)→尾根(13:00)

大鍋又沢中俣左沢

1989年8月26日

L

大鍋又沢中俣右沢より尾根を越え、左沢の源頭にトラバースしてから下降する。沢に降りて10分程下ると、連瀑帯に出る。3m, 2mと続く小滝を下り、F₉10mは左岸、F₁₀15mは右岸を懸垂下降にて下る。F₇5m, F₈8mは、左岸を一筋に懸垂下降で降りた。滝はナメ状で滑りやすいが、登ることはできると思われる。

右岸から小沢が入った先も、滝が連続して現われる。ナメの先にあるF₅2段12mの滝は、左岸を懸垂で下る。あとの滝は、ブッシュを使ったりして下ることができた。

沢が左に曲がった所で連瀑帯は終了となる。3m滝2個を下るとF₂4m。その先しばらく進んで、沢が右に曲がる手前にF₁5mがある。F₁は、左岸を懸垂下降した。

このあと二俣までは、両岸が迫っているものの滝はかからない。小滝を下ると二俣。あとは行動を終えて出迎えてくれた、滝沢川に入った西・鈴木パーティと無線で連絡をとりながら、林道めざして下る。

[タイム] 下降点(13:00)→右沢出合(16:35)→林道終点(17:40)

古滝沢(仮称)

1990年8月26日

L

三条の学校跡から車で林道を進み、霧来沢と大鍋又沢の出合付近に駐車。古滝沢(仮称)と大鍋又沢の出合の少し手前で大鍋又沢に降りる。

7:40古滝沢(仮称)出合到着。出合は、注意して歩かないと、見逃しそうである。